

Fグループ

ティータイム コンサート

「音楽に支えられて」

素朴な木の笛、リコーダー

小鳥のように自由に歌う、
大空へ緑の森へと向かって…
美しい音への憧れをいただきながら。

《出演》リコーダー演奏 熊取谷寿子(16回生)
ピアノ伴奏 脇谷敦子(32回生)

《演奏曲目》

バッハ: 「イエスこそ光」
コレリ: ソナタ Op5 No8 ト短調
ファン・エイク: エコーファンタジー 他

フェリスの丘で音楽と語らいの素敵な時間を楽しみませんか?
皆様のおいでをお待ちしています!

Tea Time CONCERT

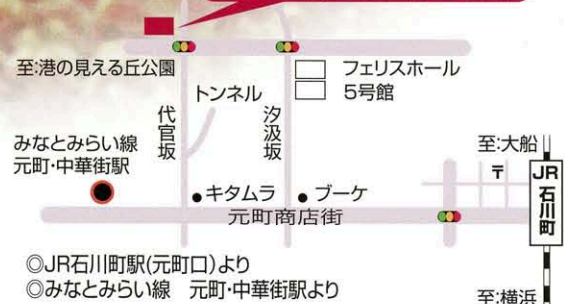
2011年11月10日(木) 14:00~15:30

フェリス女学院大学山手キャンパス6号館

会費: 1,000円(茶菓子付)

定員: 50名(申込先着順) 学外・卒業生以外も可

フェリス女学院大学6号館



◆主催 フェリス女学院大学音楽学部同窓会 (Fグループ)

◆お問合せ/お申込み 8月20日より

中川 佐和子

Fグループ事務局(木曜日10~17時)

TEL&FAX:045-681-6740

Fグループ
Tea Time Concert

～ 音楽に支えられて ～

素朴な木の笛、リコーダー
小鳥のように自由に歌う、
大空へ緑の森へと向かって…
美しい音への憧れをいただきながら。

お話と演奏 **熊取谷寿子** (16回)

ピアノ伴奏 **脇谷敦子** (32回)



2011年11月10日(木)14時
フェリス女学院大学・山手キャンパス6号館 601 教室

***** PROGRAM *****

バッハ J. S. Bach (1685-1750)

《シエメルリ歌曲集》より

慰めなるイエス Jesus, unser Trost und Leben BWV475

「慰めなるイエス 死よりよみがえり
さかえのうちに ふたたび生きたもう
勝利の君 いま死に勝ちたまいぬ
アレルヤ アレルヤ」

(大村恵美子 訳)

コレッリ A. Corelli (1653-1713)

ソナタ Op. 5 Nr. 8 g-moll

プレリュード Preludio Adagio

アルマンダ Allemanda Allegro

サラバンダ Sarabanda Largo

ジガ Giga Allegro

ファン・エイク J. van Eyck (C, 1590-1657)

《笛の楽園 Der Fluyten Lust-hof》より

エコーファンタジー FANTASIA EN ECHO

スコットランド民謡 大竹尚之 編曲 (2003)

「スコットランドの釣鐘草」による変奏曲

upon Variations The Bluebells of Scotland

デュパール C. Dieupart (C, 1670-C, 1740)

組曲 第4番 g-moll

序曲 Overture (Lentement)

アルマンド Allemande / クーラント Courante

サラバンド Sarabande / ガヴォット Gavotte

メヌエット Menuet / ジグ Gigue

バッハ J. S. Bach (1685-1750)

《シエメルリ歌曲集》より

イエスこそ光 Jesus ist das schönste Licht BWV474

「イエスこそ光 み父の喜び
わがいとしごと み父は呼ばわる
イエス 愛をもて われを照らしたもう
いこいと喜び ここに湧き出す」 (大村恵美子 訳)

***** PROFILE *****

♪ 熊取谷寿子 (くまとりや ひさこ) ☆ リコーダー

フェリス女学院短期大学音楽科卒業、同専攻科修了。

声楽を三枝喜美子氏、倉長治子氏に師事。その後、リコーダーを大竹尚之氏に師事。オランダに於いてマイケル・バーカー氏に、イタリアで参加したポルチェニーゴ古楽講習会でワルター・ファン・ハウヴェ氏にレッスンを受ける。

現在、音楽教育活動のかたわら、アンサンブル、サロンコンサート、チャペルコンサート等を行っている。

元フェリス音楽教室講師、東京バロック音楽研究会会員、ジャパンアカデミーフィルハーモニック理事。

♪ 脇谷敦子 (わきや あつこ) ☆ ピアノ

フェリス女学院短期大学音楽科卒業、同専攻科及び研究科修了。

故・三宅洋一郎氏、熊本美也子氏に師事。

NHK洋楽オーディション合格。在学中、神奈川フィルハーモニーと協演。

現在、ソロ演奏のほかにも、サクソ・コントラバスとのトリオや、様々な楽器・声楽・合唱団の伴奏を、横浜美術館、横浜ランドマーク、鎌倉歌のサロンなど鎌倉・横浜を中心に活躍している。

横浜市民広間演奏会会員。

一本の笛とたくさんの笛

物心ついて最初に憧れたオルガン……それは、たくさんの笛が奏でる響きです。今、一本の笛が私のかげがえのない友達となっていることに不思議な導きを感じます。

リコーダーは中世やルネッサンス期、バロック期にヨーロッパで広く愛好された楽器です。今日に至るまでには地域や時代で音楽の変化と共に楽器も変化してきました。

絵画にみられる天使や羊飼いが吹く笛、小鳥に鳴き方を教える笛、教会や宮廷において、市民の間で、祭りの中では民族楽器として ……いろいろな場で音を奏でる笛。

貴族達が“お茶”する時に、絵画・文学・音楽談義に興じ、そこで共に歌い、演奏を楽しんだ楽器として、リコーダーは、ヴァイオリン、チェンバロ、リュート、ヴィオラ・ダ・ガンバなどと共に大変人気がありました。

古楽として人気のあったチェンバロやリコーダーも、ベートーヴェンの時代以降に一時姿を消しましたが、19世紀末位から再び関心が強まり、熱意ある楽器製作家によってすぐれた楽器が生み出され、とてつもない技巧を持った演奏家達によってさらに進化をしてきました。

今後も親しき仲間が大小さまざまなリコーダーをもちいた合奏を楽しみ、ますます盛んになっていくことでしょう。

そして私、一本の笛はたくさんの笛に支えられて今日があることに感謝し、これからもゆっくとさらに響かせていきたいと願っています。